

CIRC 番組 「夕の祈り」 2012年8月

8月は、平和について考えるにふさわしい月間です。私たちは「平和」という用語を使いますが、定義が極めて曖昧なまま使われているような気がしてなりません。今日も暑い中、お疲れ様でした。日々の生活が守られますように、また、神様の慰めと祝福がありますように祈ります。今日、あなたはどのような日をお過ごしでしたか。私たちのために、神様がイエス様をお与えくださいました。そのことを感謝しながら、いつも私たちと共におられる神様のことについて一緒に心を向けましょう。

聖書

平和を実現する人々は、幸いである、
その人たちは神の子と呼ばれる。

(新共同訳聖書 マタイによる福音書 5:9)

旧約聖書における、平和または平安は、時に戦争のないことを意味しました。しかし、ヘブライ語の「シャローム」という言葉は、戦さのないこと、という意味に加え、繁栄（詩37:11）とか、平安（エレ6:14）という意味合いがあります。真の平和の源は、神にあり、神との契約に伴う正しさをあらわす「義」が条件になっています。

また新約聖書における平和について、平和を作り出す者、平和を実現する者の至上の幸福を約束されました。その人たちは神の子と呼ばれる、とあります。福音は平和の良きおとづれ（使10:36）であり、これは神との平和であると説きます。それは、キリストの十字架の血によって与えられる（コロ1:20）ものであり、十字架によってキリストはわれわれの平和となり（エフェ2:14）、神との和らぎを得てくださった（エフェ2:15-16）、と説明します。

世界で最初の原子爆弾を受けた私たちの国日本は、昨年原子力発電所の爆発事故により放射能汚染の被災国となりました。安全性どころか危険性が指摘され、問題未解決の状況下での原発再開の安易さに、静かな抵抗、抗議の集会が続いています。爆発をした福島原子力発電所での放射能汚染問題は、現にこの先何十年にも亘ってふるさとに住めなくなった方々がおられる他、被爆の影響の問題も残っています。

産業革命以降、技術の発展進歩が大量生産を生み出し、経済的繁栄、経済性優先の思想が重要視され、大切な安全性確保の問題や、危険性の過小評価など、都合のよい理屈が優先されてしまう風潮を作り出してしまいました。今こそ謙虚になるべきだと思います。

お祈りしましょう。様々な問題に苦しむ方々、助けを必要とする方々、悲しみの中にある方々を慰め、一人ひとりを励ましてください。どうか、平和な世界を子どもたちに残せるようにしてください。また癒しと勇気、希望をお与えください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。